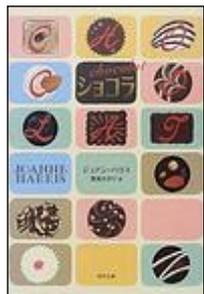


ENTERTAINMENT



2000年
映画化!

『ショコラ』
ジョアン・ハリス／著
那波 かおり／訳
角川書店(角川文庫) 2002年

古くからの伝統が根付くフランスの小さな村に、ある日謎めいた母娘がやってきてチョコレートの店を開く。母・ヴィアンヌの客の好みにあったチョコレートを見分ける魔法のような不思議な力で、狭い世界で凝り固まっていた人々の心を優しく溶かしていく。やがて村の雰囲気も明るく開放的なものになっていくのだが…。最後の場面「人間の価値とは何を受け入れるかで決まる」という神父の言葉が、この作品の全てを物語っている。

映画では、原作よりもヴィアンヌと青年・ジプシーとの恋に比重が置かれているが、甘いだけではない、「生と死」「宗教と道徳」「母と子」など、奥深いテーマが散りばめられているロマンス&ファンタジー作品。

読むだけできっとあなたもチョコレートの魔法に魅了されるはず。甘いもののご用意を!

「ユースフルエイジ (Youthful Age)」は YA世代に送る、本・漫画・映画・音楽などのおすすめ情報を掲載した渋谷区立図書館が発行する定期刊行物です。

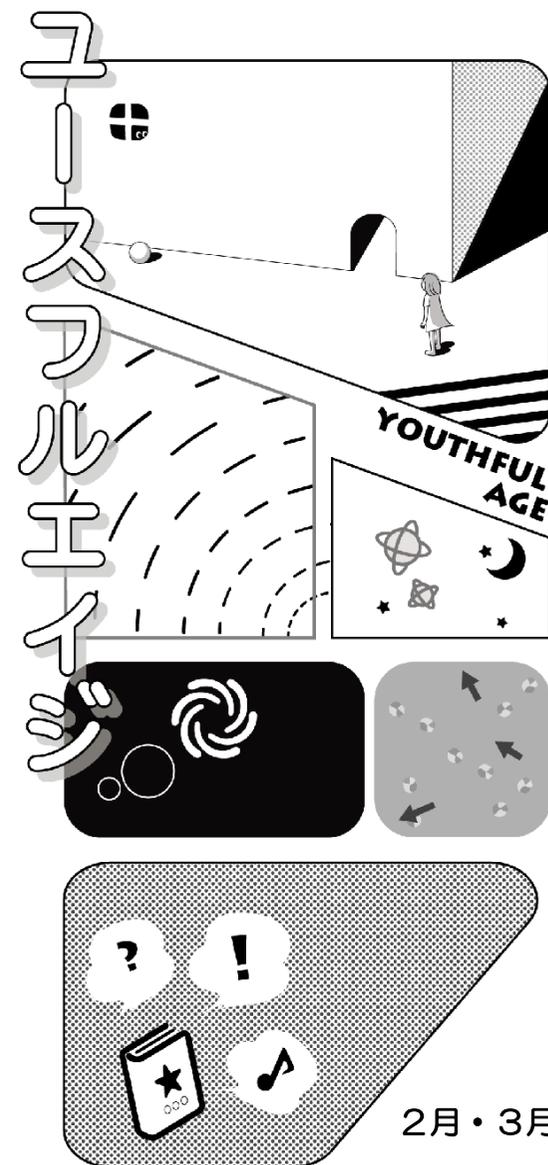
YA(ワイエー)とは…
Young Adult(ヤングアダルト)の略で、おおむね12歳から18歳までの人たちのことをさします。

ユースフルエイジ
2024年2月・3月号【No. 18】

発行／編集 渋谷区立図書館
株式会社図書館流通センター

発行日 2024年2月

渋谷区立中央図書館
電話 3403-2591
住所 渋谷区神宮前1-4-1



2月・3月号
【No. 18】

SHIBUYA CITY LIBRARIES

Pick
Up!

Recommended books

スイーツ大好き！



『世界のティータイムの歴史』
ヘレン・サベリ／著 村山 美雪／訳
原書房 2021年

世界中で愛されてきたティータイム。その起源を遡り、普及の歴史を振り返りつつ、ティータイムの慣習を旅しているかの様に巡ることができる一冊。『不思議の国のアリス』や『赤毛のアン』など、文学の中のティータイムも紹介されています。



『アンと青春』
坂木 司／著
光文社(光文社文庫) 2018年

和菓子屋「みつ屋」のアンこと杏子は、アルバイトを続けながら将来について悩むが、お菓子ですぐに元気になる女の子。そんなアンが和菓子に込められたメッセージを読み解いていく、ちょっぴり恋愛ありの物語。ついつい和菓子が食べたくなります。



『言葉の園のお菓子番』
ほしお さなえ／著
大和書房 2021年

1月なら「もなか」、2月なら「豆菓子」、3月なら…とそれぞれの季節に合ったお菓子を用意することになった一葉。連句の会のメンバーと食べる様子はとてもおいしそう。その季節にしか味わえないお菓子を誰かと一緒に食べたくなる一冊です。



『いちごのお菓子づくり』
今井 ようこ／著 藤沢 かえで／著
誠文堂新光社 2023年

スイーツ大好きなあなた！自分で作ってみるのはいかがですか？例えばそろそろ旬のいちご。そのままでもおいしいけれど、この本にはいちごがますますおいしくなるスイーツがいっぱい。見た目もカワイイいちごスイーツは贈り物にもピッタリです。

New!

『世界の郷土菓子』
郷土菓子研究社・林周作／著
河出書房新社 2023年

世界中を旅して見つけたホンモノの郷土菓子。著者が実際に現地へ行って感動したお菓子の中から厳選した31のレシピを紹介。日本で手に入る材料で、できるだけ現地の味を再現しています。



『喫茶店のこと、そしてコーヒーの話。』
マガジンハウス 2023年

喫茶店。なんだかちよっぴり大人の空間。こだわりのメニューや名物マスター、お菓子とコーヒーなど、喫茶店やコーヒーに関する話題がまとめられた一冊です。

※データ2022年1月現在



COLUMN

和菓子派？ 洋菓子派？

和菓子はだいたい江戸時代までに作られるようになったお菓子で、植物性の素材(卵は例外)を使っているのが特徴です。

1980年ごろから、ティファミスやマカロン、カヌレといった洋菓子が大人気となり、和菓子の出番が少なくなってきたようにも見えます。

しかし、最近はクリームやバターを使った和菓子、抹茶や柚子などの和風の素材を使った洋菓子も一般的になりつつあります。

そのうち、和菓子・洋菓子の区別がなくなっていく、見たことのない新しいスイーツが登場するかもしれません。